

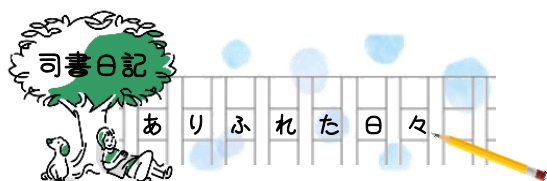
立春は春がはじまる日

今年の立春は2月4日。2月初旬は1年で最も寒いころですから、ちょっとピンとこないかもしれません。でもこの時期になると、夕方学校から帰るとき、日が長くなっているのに気づきますよね。

立春をすぎてから最初に吹く強い南風を「春一番」。お茶摘みの「夏も近づく八十八夜〜」は、立春から数えて88日という意味。

さまざまな事の起点にもなっているんですね。

受験生の皆さん 春はすぐそこまで来ていますよ



はっとする言葉にであう

「折々のことば」

皆さんこんにちは。突然ですが、新聞読んでますか？

うちでは朝日新聞を購読しているのですが、毎日読むのはなかなか難しいので休みの日や時間のある時にまとめて読むようにしています。が、ただ一か所だけ、第一面に連載中の「折々のことば」だけは、毎日目を通しています。哲学者の鷲田清一さんが各界の著名人（俳優、スポーツ選手、作家、学者などなど）の著書や談話などから珠玉のことばを紹介している7センチ四方ぐらいの小さなコーナーなのですが、そこには、



「う〜ん、鋭い」と唸ってしまうもの、泣けてくるもの、ほっこりするもの、とにかく良き言葉が連なっています。記憶にとどめておきたい言葉が紹介されていた時にはノートに貼り付けています。

だいぶんたまってきましたのでその中からとっておきを紹介します



「持てる力を他に使いようがないまま無駄遣いしてしまう。

そこにこそ青春の魅力が潜んでいるのかもしれない。」

トールゲーネフ『はつ恋』から

彼は自らの著作『はつ恋』の最終章で、青春の特権は「一切を成しうる」ではなく「一切を成しうると思えることができる」とも書いている。中高生のみんなは今ちょうどそんな時期。私も昔は怖いものなんか何もなかったなーと感慨にふけていたら、「今でも十分怖いもの知らずじゃない」と近くの人に言われた。あ…。

蜂は最初の六角形の一辺の長さを決める時、自分の触角を物差しにします。

甲斐信枝『あしなが蜂と暮らした夏』から

山麓にある納屋で見つけた蜂の巣で蜂の誕生から死までを見つめたひと夏の観察記の中の言葉。蜂と同じく人もまた掌や指先から肘までの長さ、歩幅など自分のサイズを目安に生活を整えてきたと。また己の内に尺度を持つことが生き物の尊厳だとも。その通り！何か物事を決める時、誰のものでもない、自分の尺度で判断すること、またそれが可能な世界であってほしいな。

「川も道も人も、曲がるところに物語が生まれますよ。」

吉村喜彦

連作短編集『二子玉川物語』から

これはまっすぐ流れることだけを目指して「自分に嘘をついているとどンドン歪んでくる」という物語中の人物のセリフを受けて繋がれた言葉。優等生じゃなくてもいい。うねうねと蛇行しながら進んでいくほうがむしろ自然なんですね。確かに人生の中でググッと曲がった先にこそ、いろんな発見や出会いがあったなと思います。

味わいのあることばの数々。そんなことばをひとときかみしめる、私の大切なルーティンです。（大塚）



新着図書ピックアップ



『ミトンとふびん』

吉本ばなな【著】

6つの話の短編集です。吉本ばななさんの本は、静かに淡々と語られているような文章で、決して激しいストーリーのものでもないと思いますが、なぜか心に強く突き刺さるような表現があったりずっと気になるような登場人物がいたりします。

今回も久々に著者の本を読みましたが、やはりそうでした。小難しい言葉はないのでスーッと読み進められて、情景や様々な国の風景も思い浮かんできます。寂しさや喪失感のお話が多いのですが、それでも日常は続いていくことがとても自然で心地よく、癒されていくような感覚でした。(大原)



『女の子の謎を解く』

三宅 香帆【著】



ジブリの空飛ぶ少女をはじめ、小説やマンガ、ドラマなどの物語で活躍するヒロインに焦点をあてた書評集。これまでの「書評」のイメージを覆す軽やかな文体ですらすら読めてしまいます。「時代の要請を受けて、ヒロインのキャラクター像は形を変える」という指摘はごもっとも。ただ、問題提起はあれども結論がないといえますか。どの文章も「女の子の謎を解く」ところまではいってないかなという印象を受けました。

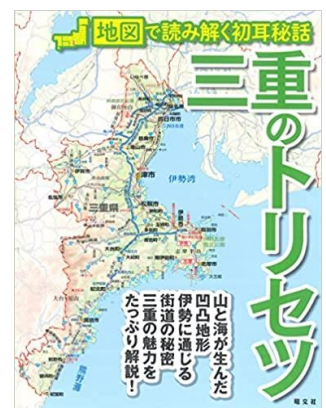
それよりも、書評ってこれでいいのか！という驚き。本を読むのはそれほど嫌じゃないけれど、読書感想文が苦手な人は読んでみてください。目から鱗、間違いなしです。(津田)

『三重のトリセツ—地図で読み解く初耳秘話』

昭文社 旅行ガイドブック 編集部【編集】

三重県に住んで四半世紀。適度に都会で適度に田舎。銀行も病院も待たされずに済む。食べ物は美味しい。三重弁も上手になりました。

そんな大好きな三重県の謎や魅力を地形、交通、歴史、文化、産業など多彩な50余りのテーマから地図で読み解いていく本書。中には生粋の三重県人も知らないこともあるかも。例えば琵琶湖はもとは伊賀の上野盆地にあり、それが地殻変動により大きくなりながら北へ北といざうて行き、やがて鈴鹿山脈や比叡山の隆起によって現在の場所に大きく移動したということです。そのほかにもヘーと思わせてくれるお話たくさん、読み応えたっぷりの一冊。(大塚)



新着ピックアップは毎月、司書が「これはぜひ読んで！」と思う本を選びすぐってお届けします。

上記以外にも新着図書がたくさん届いています。カウンター前の新着コーナーをご覧ください。



待ち時間には本を読むこともある

藤崎一臣の本、読んでいこう！ vol.47

『スモールワールズ』 一穂ミチ【著】

2月の
開館予定

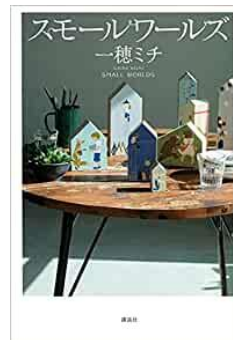
先日、本屋大賞 2022 ノミネートが発表されましたね(^_^)。今回は、ノミネート作品の中から『スモールワールズ』をご紹介します。すでにネット上では、ノミネート作品発表前から本屋大賞 2022 の本命とも言われている作品です。

6編からなる短編小説で、1編あたり 50 ページ程度の物語になりますが、どの内容も濃ゆい(ﾟдﾟ)！面白い物語で共通して言えることは、展開が読めない。そして読者を良い意味でも悪い意味でも裏切ってくれるオチがあること。これが6編ともに揃っているんですよ！この作品は(*_*)いやあ~面白い！短編小説 累計読破数3冊の私が言うことなので信憑性に欠けますが(笑) これまで読んだ短編小説は、作中の物語に波を感じましたが、(何評論家気取りで語ってるんじゃない！って感じですが、お許しください。)その作中で、著者が最も自信のある物語を『著書のタイトル』にしている傾向にあると感じているのですが、今回の『スモールワールズ』は違います。

- ① 「ネオンテトラ」 子宝に恵まれず夫との関係に悩む妻がある日、虐待を受ける少年を目撃。しかし、その少年は…。
- ② 「ピクニック」 突然、孫娘の身に…その起きた出来事に疑惑を向けられる祖母。祖母の隠された過去とは…。
- ③ 「魔王の帰還」 男勝りの性格の姉が突然の離婚？で実家に帰ってきた…その理由は？
- ④ 「花うた」 兄を殺した加害者と文通を続ける妹…。手紙のやり取りだけが物語になる不思議な作品
- ⑤ 「愛を適量」 十数年ぶりに再会した娘が息子に。親心と子心の絶妙なすれ違い…。
👂個人的にこの話が一番面白かったです。
- ⑥ 「式日」 途中まで気づかなかった。ネオンテトラが出てくるまでは。

見てのとおり、作中のタイトルが著書のタイトルになっていません。『スモールワールズ』のタイトルの由来は知りませんが、各物語の登場人物たちに共通する「苦悩を抱えながら生きる」それぞれの生き方が各 50 ページ程度に小さい世界がギュギュッと凝縮されています。

さあ、今年の本屋大賞はどの作品が大賞に輝くでしょうか？みなさんはどの作品が大賞に輝くと思いますか？今年も EMC では、本屋大賞 2022 予想大会を派手に開催予定！お楽しみに~(^~)/



2月	
1 火	8:10-18:50
2 水	8:10-18:50
3 木	8:10-18:50
4 金	8:10-18:50
5 土	休館
6 日	休館
7 月	8:10-18:50
8 火	8:10-18:50
9 水	8:10-18:50
10 木	8:10-18:50
11 金	休館
12 土	休館
13 日	休館
14 月	8:10-18:50
15 火	8:10-18:50
16 水	8:10-18:50
17 木	8:10-18:50
18 金	8:10-18:50
19 土	休館
20 日	休館
21 月	8:10-18:50
22 火	8:10-18:50
23 水	休館
24 木	8:10-18:50
25 金	8:10-18:50
26 土	休館
27 日	休館
28 月	休館/館内整理



第45回 田畑雅基先生おすすめ

『カレーライスを一から作る：関野吉晴ゼミ』

前田亜紀【著】

グレートジャーニーの探検家、関野吉晴さんが行った授業の本です。それは、カレーライスを一から作ること。私もスパイスからカレーを作っていますが、そんなレベルではありません。スパイスを育てるところから！です。鶏も育てます。塩も作り、器とスプーンも手作りです。鶏を屠る(ほふる)中で、食べ物の命とは何かを考えさせられました。「私たちは自然と繋がっていて、命を食べて生きている」そんな気持ちにしてくれました。

※お薦め本はリレー連載です。次のバトンはどうなかに渡るかな？



The 卒業



卒業式が近づいてきましたね。EMC をたくさん利用して頂きありがとうございました。読書は、普段触れない価値観を知ることができたり想像力を育てたり、またリラックス効果もあると言われています。今後も様々な本と出会う機会があることを願っています。卒業してもたまには EMC に遊びに来て下さいね（学外利用者登録もお待ちしています♪）。

さて、そんな今月の特集棚は **The 卒業** ≪卒業するみなさんの前途を祝して、お世話になった先生から高校生活の最後に「1冊」≫を紹介しています。あの先生がこの本を！？詳細は図書館へ見に来て下さいね。



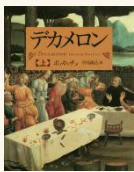
『徒然草』

“常に変化し続ける（無常な）現代を生き抜くためのヒントになれば”



『完訳 7つの習慣』

“変化と成長の扉を開け、忍耐強く取り組むこと。それを「習慣」としてほしいと思います”



『デカメロン』

“こんなの高校生に勧めてもいいの？と思いましたが、私も同じことをするとは・・・”



『DEATH 「死」とは何か』

“人は必ず死ぬ。だからこそ、どう生きるべきか”



『2021 大学入試 良問集 理系』

“諸君、私は数学が好きだ”



『花神』

“学問を学ぶと言うことはどういうことなのか”

参考図書リニューアル

- ☆ “辞典” 重くて難しい辞典よ サラバ！一使えるもの集めました。
- ☆ “図鑑・事典” 脱ありきたり図鑑一必見の図鑑がズラリ。
- ☆ “郷土史” 三重県を知ろう！一歴史や地理・自然民族などの地域資料コーナーです。

図書館からのお知らせ

- ・ 開館時間は2月も継続中です（～18:50まで）。
 - ・ システム更新の為、**図書とパソコン貸出停止します（3月20日～4月8日）**。
- なお、返却・館内の利用は可能です。

卒業される皆さんへ

最終返却日は **2月18日(金)** です。
延長希望の方は、カウンターで手続きをして下さい。

（編集後記）寒さも本格的になってまいりました。お勉強の時は、頭寒足熱で。手洗いうがいを忘れず、体調管理もしっかりしましょう。

